

## ひと

一般社団法人日本リ・ファッション協会代表理事



すずき じゅんこ  
鈴木 純子さん(45)

代表理事を務める、日本リ・ファッション協会は、被災地の避難所や施設などに、男女年齢別や季節別に必要な衣類を細やかに届けています。

「元気な地球を次世代に残していくために、日本の伝統の技や知恵を生かしていいものを長く使う、循環型社会を実現させたい」と2009年、同協会を設立

しました。きっかけは、I T企業社長としてファッション業界にかかわるなかで、世界に誇る日本の衣類メンテナンス技術が継承されていない現実を知ったこと。理念に共感したさまざま企業や個人が会員です。

大量生産・大量消費・大量廃棄のシステムを変える活動として、衣類リサイクル

ル、リユースを推進。被災地支援はその延長です。

震災後、津波の被災地を訪問。「呆然として、自分が役に立つのかと途方に暮れました。でも被災地の方ががんばりをみて、できることをみんなでやろうと気持ち切り替わりました」

衣類を募集すると、全国から毎日数百個の段ボールが届きました。福島市に借りた倉庫で、現地の人を雇用して仕分け作業。施設などに必要な衣類を聞き、届けています。「いま、被災地に送る初盆用の喪服を募集しているんです」

多くの人に信頼された企業家の祖父を尊敬し、16歳で起業を決意。「人が使い捨てられるのではなく、人が生かされる仕事を作りたい」。やわらかな感性で、社会を変えています。

文・写真 寺田 可奈